

さいたま市立東岩槻小学校 学校だより 2月号



すわっ子だより

学校教育目標 ともに伸びる子
かしこく ゆたかに たくましく
令和6年2月1日(木)
第12号 発行責任者 渋谷 恵子
在籍児童数146名
<http://higashi-iwatsuki-e.saitama-city.ed.jp>

きっかけ

校長 渋谷 恵子

「大谷翔平選手のグローブは、もう届きましたか？」朝出勤する時に、駅から学校まで歩く途中でお会いした地域の方から声を掛けられました。大谷選手に関する話題は報道等で大きく取り上げられていましたので関心も高く、その話は複数の方からいただいていたのですが、本校にも1月下旬にようやく届きました。どのように使っていこうか児童たちと相談し、活用していく予定です。(地域の皆様も、よろしければ学校に足をお運びください。)私としては、地域の方が学校に関心を寄せてくださるきっかけをつくっていただいた大谷選手に感謝です。

さて、新学期が始まってすぐの土曜授業日(13日)に、開智中学・高等学校の生徒の皆さんが、学習ボランティアとして本校に来校しました。もともと開智中学・高等学校では、委員会活動の一環として学校がある周辺の地域のボランティア活動を行っているようで、これまで通学路の清掃や地域の住宅の大掃除のお手伝い、子ども食堂への関わりなど様々な活動に取り組んでいるそうです。実は、生徒さんたちの来校は2回目で、1回目は年末に校庭の花壇等の草取りを行ってもらいました。そして、2回目が土曜授業日。当日は、朝のあいさつ運動から、体育館での顔合わせ会、学級ごとに自己紹介や質問タイム、授業での児童たちへの支援や声掛け、業間でサッカーや鬼ごっこなど。短い時間でしたが、児童たちが人とかかわり方を学び、そのよさを感じるよい機会となりました。実は、この活動のきっかけは、地域の方でした。本校が、学校を支援してくださる方を探していたことから、開智中学・高等学校の先生をご紹介いただき、この活動が実現したのです。つないでいただいた地域の方に感謝です。今後も継続して交流していきたいと考えています。

そして学校では…。体育の授業をきっかけに1年生は、業間、昼休みは縄跳びで駆け回っています。「できるようになりたい。」と何度も挑戦している姿があります。6年生は、能登半島地震、学校での避難訓練等をきっかけに、学校の防災倉庫を見学し、どのようなものが入っているかを皆で確認したそうです。日々の教育活動でそのきっかけを生み出しているのは、本校の教職員です。あの手この手で児童たちによい刺激を与え続けていることにも感謝です。

大谷選手は、小学校の時に友達に誘われてリトルリーグの体験会に行き、面白かったというのが、野球を始めたきっかけだったそうです。寄贈していただいたグローブから野球に興味をもったり、充実した人生を送る出来事につながったりする児童がいるかもしれません。児童たちがよりよく生きる「きっかけ」にたくさん出会えるよう、日々の教育活動を推進してまいります。